

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	主要市道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	国の交付金を活用し事業を進めるとともに、用地取得済個所については、簡易舗装を行い、歩行者空間を確保する。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	国の交付金を活用し事業を進めるとともに、用地取得済個所については簡易舗装を行い、歩行者空間を確保する。事業債活用のため、市道修繕調査を実施し、修繕計画を策定する。
②①に基づく取り組み結果	社会資本整備総合交付金を活用し、用地取得、舗装改良工事を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	主要市道	意図(対象をどうするのか)	測量、設計、用地補償、工事を行う。
②事務事業の概要	安全で快適な道路網整備のため、主要市道における歩道の整備、危険箇所の線形改良、排水整備、舗装改良を実施し、歩行者等の安全と交通の円滑化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	事業開始前は、主要市道でも歩道が無く交通量に見合った幅員や舗装となっていなかった。住民の要望が満足となるよう本事業を推進する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	主要市道の舗装改良、及び用地取得を実施した。 市道28号線舗装改良工事(L=390m)、市道5号線舗装改良工事(L=193m)、軽井沢周回道路Ⅱ期用地取得(A=46.29㎡)市道22号線用地取得(A=20.77㎡)、市道26号線用地取得(A=411.73㎡)						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	工事延長	1,068	622	583	m	業務取得
	ii	工事延長【平成23年度から累計】	6,794	7,416	7,999	m	業務取得
iii	「道路の状況」不満足度		-	-	65.7	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	81,541	85,501	金額(千円)	内容	209,325		
国支出金(千円)	35,918	34,490	24,598	市道28号線舗装改良工事	90,000		
県支出金(千円)			11,863	市道5号線舗装改良工事			
市債その他(千円)	26,400	32,800	10,022	軽井沢用地購入費	93,200		
一般財源(千円)	19,223	18,211	9,289	市道26号線用地購入費	26,125		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市の主要な道路でも、歩道が無い箇所や狭い箇所が多く、交通量に見合った幅員や舗装構成になっていない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民意識調査の「道路の状況」不満足度を下げたため、主要市道の整備は不可欠である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	舗装改良工事、軽井沢周回道路第2期整備事業、用地取得	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	舗装改良工事、軽井沢周回道路第2期整備事業、用地取得	126,728	133,318	当初	126,728	85,501	H29からの繰越	5,639
				H29→30繰越	5,697		現年分	79,862
③達成状況	未完了			補正				
④未完了・非着手の理由	用地取得に係る業務が年度内に完了しなかったため。			流用・充当	893			
				令和元年度への繰越額(単位:千円)		12,599		

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	交差点改良事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	交差点の安全性を早期に向上させるため、工事予定箇所の早期発注を行う。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	交差点の安全性を早期に向上させるため、工事予定箇所の早期発注を行う。
②①に基づく取り組み結果	市道3・4号交差点詳細設計について早期に発注し、用地取得後に工事を発注した。設計委託については工期内に完了したが、工事については支障物件の移設に不測の時間を要し繰越した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	主要市道の交差点	意図(対象をどうするのか)	交差点の改良による安全性の向上・交通渋滞の緩和
②事務事業の概要	安全で快適な道路網整備のため、主要な交差点の右折車線、歩道の整備、交差点形状の改良を行い交通渋滞の緩和、交差点付近の安全性の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	視界が悪く、歩行者が横断待ちするためのスペースの無い危険な交差点や、自動車交通量の増加に伴い、渋滞が発生している交差点がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	市道22号線予備設計及び用地測量を実施し境界立会を実施した。市道3・4号線交差点用地取得(A=30.99㎡)。市道3・4号線交差点の詳細設計を完了し、交差点改良工事を発注した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	工事実施箇所(累計)	5	5	5	箇所	業務取得
	ii	「道路の状況」不満足度	—	—	65.7	%	市民意識調査
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	3,370	15,919	金額(千円)	内容	51,803		
国支出金(千円)			1,998	市道22号線交差点予備設計委託	19,745		
県支出金(千円)			6,372	市道22号線交差点用地測量委託			
市債その他(千円)			1,836	市道3・4号線交差点実施設計委託	14,500		
一般財源(千円)	3,370	15,919	2,464	市道3・4号線交差点用地購入	17,558		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	幅員が狭く見通しの悪い市道の交差点が多い。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	交差点改良の要望が多く、市民の安全のため早期に交差点改良を行う必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	市道22号線予備設計、市道3・4号線用地取得及び交差点改良工事	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	市道22号線予備設計及び用地測量、市道3・4号線詳細設計、用地取得	31,015	30,581	当初	31,015	15,919	H29からの繰越	0
				H29⇒30繰越				
③達成状況	未完了			補正			現年分	15,919
④未完了・非着手の理由	市道3・4号線交差点改良工事をH31年度に繰越したため	令和元年度への繰越額(単位:千円)						11,303

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	一般市道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業効果の高い一般市道を選定し、効率的に工事を実施する。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	事業効果の高い一般市道を選定し、効率的に工事を実施する。
②①に基づく取り組み結果	市道3308号線の冠水対策のため排水整備工事を発注した。市道2107号線の道路予備設計を実施し、道路法第95条の2協議を整え公安委員会に提出した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	一般市道	意図(対象をどうするのか)	安全でゆとりのある道路に整備する。
②事務事業の概要	道路排水施設の整備、舗装新設、狭あい路線の拡幅を行い地域住民の利便性と生活環境の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	生活道路となる一般道路が未整備で、舗装整備や道路排水整備の必要があります。住民の生活環境が向上するよう本事業を推進する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	市道2107号線の道路予備設計を実施し、千葉県公安委員会と道路法第95条の2協議を提出した。 市道2107号線予備設計委託(L=700m)						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	工事延長	625	128	-	m	業務取得
	ii	工事延長【平成23年度から累計】	3,243	3,371	3,371	m	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	-	-	65.7	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	14,307	4,752	金額(千円)	内容	53,252		
	国支出金(千円)		3,888	市道2107号線予備設計委託			
	県支出金(千円)		499	市道3812号線物件調査委託			
	市債その他(千円)	9,900				27,000	
	一般財源(千円)	4,407	4,752			26,252	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	道路排水施設の未整備箇所、舗装の不良箇所が多い。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民意識調査の「道路の状況」不満足度を下げたため、一般市道の整備は不可欠である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	排水整備、予備設計	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	市道2107号線予備設計委託	24,963	24,070	当初	19,000	4,752	H29からの繰越	0
				H29⇒30繰越				
③達成状況	未完了			補正	5,963		現年分	4,752
④未完了・非着手の理由	市道3308号線排水整備工事はR1年度に繰越したため			流用・充当	-893			
							令和元年度への繰越額(単位:千円)	16,037

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	私道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	整備要綱の改正により、新規舗装だけでなく、補修工事についても対象となったことから、広報等により広く市民に周知していく。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	整備要綱の改正により、新規舗装だけでなく、補修工事についても対象となったことから、広報等により広く市民に周知していく。 申請のあった私道整備工事を早期に発注し利用者の利便性を向上させる。
②①に基づく取り組み結果	改正した整備要綱についてホームページに掲載した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	私道	意図(対象をどうするのか)	舗装整備工事、舗装補修工事を行う。
②事務事業の概要	未舗装私道の舗装及び舗装済み私道の補修を推進し、地域住民の利便性と生活環境の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	事業開始当初は多くの私道が未舗装で日々の生活や環境・衛生面に悪影響を及ぼしていたが、本事業の推進により未舗装区間が少なくなってきた。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	舗装整備工事を実施した。 整備工事(L=14m)					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 工事延長	355	308	14	m	業務取得
	ii 工事延長【平成23年度から累計】	1,253	1,561	1,575	m	業務取得
	iii 「道路の状況」不満足度	—	—	65.7	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	4,843	627	金額(千円)	内容	3,900	
国支出金(千円)			499	舗装整備工事		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	4,843	627			3,900	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	私道舗装整備要綱の見直しを図り、補修工事についても実施することになったことから、この制度を広く市民に周知すること。				
②評価	i 市関与の妥当性	2普通	iii 公平性	2普通	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	公共性の高い私道もあることから、事業を進めていく必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	私道組合(舗装整備工事、舗装補修工事)	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	私道組合(舗装整備工事、舗装補修工事)	530	648	当初	530	627	H29からの繰越	0
				H29⇒30繰越			現年分	627
③達成状況	完了			補正				
④未完了・非着手の理由				流用・充当	118			
				令和元年度への繰越額(単位:千円)			0	

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	都市計画道路3・4・5号船橋我孫子バイパス線整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	用地に関する情報について、千葉県と情報共有を図りながら、効率的に用地取得を進める。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	用地に関する情報について、千葉県と情報共有を図りながら、効率的に用地取得を進める。
②①に基づく取り組み結果	事業主体である千葉県と連携を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・4・5号線	意図(対象をどうするのか)	整備することで交通の利便性を向上させる。
②事務事業の概要	市、南北の交通の円滑化と周辺地域の利便性の向上を図るため、県道船橋我孫子線のバイパスとして県が事業主体となり事業を施行する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	南初富区間から新鎌ヶ谷地区まで供用開始したことにより、県道船橋我孫子線のバイパスとしての機能を発揮することが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	都市計画道路3・4・5号線の物件調査委託及び用地を取得した。会社による買戻し。(A=538㎡)						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	—	—	65.7	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	284	7,146	金額(千円)	内容	4,643		
国支出金(千円)			7,146	市町村負担金			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)		3,000			1,400		
一般財源(千円)	284	4,146			3,243		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	境界が未確定の箇所があり、確定させる必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	機能的な道路ネットワークの構築や利用者の利便性・安全性の向上を図るべく道路の完成を目指す必要性があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	地元負担金	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	地元負担金支出	11,169	11,169	当初	1,000	7,146	H29からの繰越	0
				H29→30繰越				
③達成状況	未完了			補正	10,169		現年分	7,146
④未完了・非着手の理由	事業主体である千葉県が繰越したため			令和元年度への繰越額(単位:千円)			3,643	

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	都市計画道路3・4・10号中沢北初富線整備事業(中沢)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	一級河川大柏川第二調節池整備事業の進捗に支障とならないように用地取得を進める。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	千葉県と用地交換のための協議を行う。
②①に基づく取り組み結果	用地取得に係る物件調査及び不動産鑑定委託を実施し用地取得した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・4・10号線	意図(対象をどうするのか)	県と打合せを実施する。
②事務事業の概要	一級河川大柏川第二調節池整備事業の進捗に合わせ、都市計画道路の整備を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	本市の中心部から市川への主要な道路として、当該都市計画道路の整備を一級河川大柏川第二調節池整備事業に合わせ一体的に事業を進めていく。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	用地を取得した。(A=498.91㎡)						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	—	—	65.7	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	1,197	27,562	金額(千円)	内容	0		
国支出金(千円)			24,167	用地購入費			
県支出金(千円)			2,572	物件補償			
市債その他(千円)			824	永久標及び登記事務			
一般財源(千円)	1,197	27,562			0		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	一級河川大柏川第二調節池整備事業との整備計画の整合を図ること。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	一級河川大柏川第二調節池整備事業の進捗状況と合わせ周辺の一体的な整備が必要である。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	用地取得	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	用地取得(A=498.91㎡)	0	28,778	当初	28,778	27,562	H29からの繰越	27,562
				H29⇒30繰越				
③達成状況	完了			補正			現年分	0
④未完了・非着手の理由		令和元年度への繰越額(単位:千円)						0

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新鎌ヶ谷西側地区都市計画道路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業推進のため、より多くの交付金を活用できるよう、関係機関との連携強化を図る。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	事業推進のため、より多くの交付金を活用できるよう、関係機関との連携強化を図る。
②①に基づく取り組み結果	交付金を導入し、用地取得を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・3・16号線、都市計画道路3・4・10号線	意図(対象をどうするのか)	用地取得を行う。
②事務事業の概要	当該都市計画道路の整備により、新鎌ヶ谷地区内に発生する集中交通を円滑に処理する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業により交通の発生集中が生じていることから、平成25年度から本事業を開始した。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	物件補償及び用地取得を実施した。(A=123.48m <sup>2</sup> )						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	—	—	65.7	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	81,577	51,922	金額(千円)	内容	155,234		
国支出金(千円)	43,006	24,034	31,281	物件補償費	75,477		
県支出金(千円)			16,827	用地購入費			
市債その他(千円)	30,500	21,500			66,800		
一般財源(千円)	8,071	6,388			12,957		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	当該都市計画道路は東西にアクセスする道路がないため、早期に事業を進めていく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市内中心部の交通を円滑に処理し、道路利用者の安全性や利便性の向上を早急に図る必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	用地取得	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	用地取得、物件調査	102,169	115,330	当初	102,169	51,922	H29からの繰越	0
				H29⇒30繰越	13,161			
③達成状況	未完了			補正			現年分	51,922
④未完了・非着手の理由	用地取得に係る業務が年度内に完了しなかったため			流用・充当				
				令和元年度への繰越額(単位:千円)		55,234		

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	道路維持・補修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	2	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川管理課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	永末 昇			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	日常点検を含む法定点検に対応した市の点検方法の制定。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	日常点検を含む法定点検に対応した点検方法の制定。
②①に基づく取り組み結果	国基準等の情報収集を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	老朽化し、損傷した市道の舗装及び道路付帯施設	意図(対象をどうするのか)	市民の安全性、利便性の確保
②事務事業の概要	市民要望や市内パトロール等により得た情報を元に、調査・検討を行い必要に応じて道路補修を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	道路施設の点検が法令で義務化される等、老朽化対策として事後保全型から予防保全型の維持管理方式への転換に対応する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	○道路補修・清掃委託 ○排水管(溝)清掃委託 ○道路維持工事						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	「道路の状況」満足度	—	—	14.7	%	市民意識調査
	ii	道路パトロール日数	128	128	128	日	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	108,104	148,595	金額(千円)	内容	132,255		
国支出金(千円)	1,452	22,690	802	道路愛護活動報償	5,610		
県支出金(千円)	0	0	66,519	委託料	0		
市債その他(千円)	0	0	81,275	工事請負費	0		
一般財源(千円)	106,652	125,905			126,645		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市民要望やパトロールにより随時行う補修、更新と並行して、老朽化対策として事後保全型から予防保全型の維持管理方式への対応。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	法定管理者の責務として機能維持に努めることが必要のため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	道路及び排水管の清掃、維持補修工事、道路施設の点検	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	道路及び排水管の清掃、維持補修工事、道路施設の点検	148,095	150,428	当初	148,095	148,595	H29からの繰越	0
				H29⇒30繰越	0			
③達成状況	完了			補正	0		現年分	148,595
④未完了・非着手の理由				流用・充当	2,333			
				令和元年度への繰越額(単位:千円)				0